

脳卒中地域医療連携普及推進事業報告書

平成 26 年度

岡山市立市民病院

目次

第一章

事業概要

第二章

運用会議、コアメンバー会議の報告

第三章

「もも脳ネット」定款・細則の整備

第四章

連携パスの電子化推進

第五章

連携パスの改訂

第六章

「もも脳ネット県民フォーラム」報告

第七章

「脳卒中予防啓発チラシ」配布

第八章

もも脳ネット参加施設一覧

第九章

おわりに

第一章

事業概要

資料 1 はじめに

資料 2 事業報告書（別紙様式 1）

資料 3 精算額内訳（別紙様式 2）

第二章

運用会議、コアメンバー会議の報告

- ・脳卒中医療連携におけるアウトカム・バリエーションマネジメント
- ・大腿骨頸部におけるアウトカム・バリエーションマネジメント

第三章

「もも脳ネット」定款・細則の整備

第四章

連携パスの電子化推進

第五章

連携パスの改訂

第六章

「もも脳ネット県民フォーラム」報告

1. 第5回もも脳ネット県民フォーラム開催内容
2. 広報活動記録
3. メインホール講演 スライド資料
 - 資料1 「脳卒中を知り予防しよう」
岡山医療センター 脳神経内科 真邊泰宏先生
 - 資料2 「回復期リハビリテーションをご存じですか？」
済生会吉備病院 院長 坪井雅弘先生
 - 資料3 「クイズでがってん」
4. 特設会場 スライド資料
5. 県民フォーラム報告（アンケート結果を含む）

第七章

「脳卒中予防啓発チラシ」配布

第八章

もも脳ネット参加施設一覧

第九章

おわりに

事業概要

平成 26 年度の主な事業は以下の通りである。

- (1) 運用会議の開催（実務者会議、コアメンバー会議等の開催）
- (2) 「もも脳ネット」定款・細則の整備
- (3) 連携パスの電子化推進
- (4) 連携パスの改訂
- (5) 岡山県保健所備前県民局からの委託事業
 - ・「もも脳ネット県民フォーラム」の開催
 - ・「脳卒中予防啓発チラシ」配布

運用会議に関しては、本年後は実務者会議を 4 回、コアメンバー会議を 4 回開催した。会議の内容は従来通り、脳卒中連携パスの運用状況、大腿骨頸部骨折パスの運用状況の報告があり、参加施設で情報共有した。平成 25 年度より「もも脳ネット」定款・細則の整備を行っており、引き続き整備を行った。また、晴れやかネットを利用した連携パスの電子化も徐々に広まってきている。更に本年度はパスの改訂作業を行ったが、本年度中に完成とはならず、次年度に持ち越すこととなった。

岡山県保健所備前県民局からの委託事業としては、平成 27 年 1 月 24 日に岡山市民会館にて「もも脳ネット県民フォーラム」を開催した。第 5 回目のフォーラムであり、例年通り多くの市民（県民）の方々に向け、脳卒中および大腿骨頸部骨折の啓蒙活動ができた。また、平成 27 年 3 月 15 日には「脳卒中予防啓発チラシ」を 15 万世帯に向けて配布を行った。

今後の課題としては、在宅医療を含めた「もも脳ネット」の広がりが必要となると思われる。このためには、現在広まりつつある「在宅パス」との複合などが必要となる。また、現在取り組んでいる、晴れやかネットを利用したパスの電子化が各病院に広また後には、電子媒体を利用した在宅医療との情報共有なども必要となるかもしれない。

「もも脳ネット県民フォーラム」に関しては、次年度も開催を計画している。今回の第 5 回目を“節目”と考え、来年度は今までとは方向性が異なるフォーラムも視野に入れた計画を期待している。

事業報告書

機関名（岡山市立市民病院）

| | |
|--------|--|
| 事業名 | 脳卒中地域医療連携普及推進事業 |
| 事業実施期間 | 平成 26 年 5 月 9 日～平成 27 年 3 月 31 日 |
| 精算額 | 3,350,302 円 |
| 目的 | <p>・本事業は、脳卒中患者・大腿骨頸部骨折患者および、その家族が満足、安心できる医療・介護地域連携の実現を目的とし、かかりつけ医、急性期・回復期・維持期の各医療機関、介護機関の一体化した取り組みと患者・家族が治療・介護・予防に参加できるネットワーク構築を図るものである。また、地域全体の脳卒中診療・大腿骨頸部骨折診療の標準化・質の向上のため、医療資源の状況、医療機関の役割分担及び連携の体制等について、医療機関及び介護福祉機関等や地域の患者・住民にわかりやすく示し、当該患者にかかわる支援者や患者・住民への働きかけを行う。</p> |
| 事業概要 | <p>1) 実務者会議の開催 かかりつけ医、急性期・回復期・維持期の各医療機関、介護機関の一体化した取り組みを行うにあたり、脳卒中医療・介護に関わる者で医療連携体制について検討を行う。</p> <p>2) 調査研究の実施 脳卒中患者に対して、医療・在宅サービスを提供するために、患者の目標達成（退院等）における阻害因子（バリエーション）の調査分析を行う。</p> <p>3) 県民フォーラムの開催 地域住民が脳卒中に関する正しい知識を得るために、脳卒中の一次予防、二次予防、脳卒中発症の早期発見・早期治療などについて啓発を行う。</p> <p>4) 一般市民を対象とした普及啓発 地域住民に対して、安心できる医療・介護地域連携の実現を目指していることを周知するため、脳卒中に関する医療情報の発信などを行う。</p> <p>5) 医療機関・介護福祉等への情報発信 脳卒中パスの活用促進にあたり、脳卒中医療と在宅支援に関する機関の具体的な機能について、情報発信を行う。</p> |
| 成果 | <p>○ 実務者会議として、地域医療連携パス運用会議・コアメンバー会議を開催 ⇒期間中に本会議 4 回、コアメンバー会議を 4 回開催した。 詳細は第二章（別紙）を参照。</p> |

| | |
|--------------|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ○ 脳卒中及び大腿骨頸部骨折連携パスのアウトカム・バリエーション ⇒計画的に調査分析を行い、実務者会議にて毎回の定期報告を行った。 詳細は第二章（別紙）を参照。 ○ 県民フォーラムの開催 ⇒昨年同様にメインホールでの【講演会】と特設ブースでの【情報提供コーナー】の2部構成とした。388名の方にご来場いただいた。アンケートでは大半の方が「良かった」と回答。詳細は第六章（別紙）参照。 ○ 県南東部医療圏域の地域住民を対象とした普及啓発 ⇒脳卒中の予防と早期発見等についての【脳卒中予防啓発チラシ】を新聞折り込み広告として配布した。詳細は第七章（別紙）参照。 |
| <p>今後の課題</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 晴れやかネットを利用したパスの電子化。 ○ パスの改訂 ○ 在宅パスとの関連性の強化 ○ 県民フォーラムの継続 <p>などが今後の課題であると考えられる。</p> |

(注) 別紙とすることも可。また、別途、事業報告書等を取りまとめた場合は添付のこと。
なお、実施した研修会等の写真を添付のこと。

精算額内訳

備前保健所

| 経費区分 | 実支出額 (単位：千円) | 実支出額積算 (単位：円) |
|------|-----------------|---|
| 報償費 | 352 千円 | 平成 27 年 1 月 24 日 もも脳ネット市民フォーラム |
| 旅費 | 12 千円 | 市民会館での打合せに係る交通費 (H26 年 7 月と H26 年 12 月) ・ 市民病院⇄市民会館 タクシー代 (1,430 円と 1,510 円) ・ 岡山リハビリテーション病院⇄市民会館駐車場代 (1,250 円と 400 円) 岡山リハビリテーション病院での撮影に係る交通費 ・ 市民病院⇄岡山リハビリテーション病院 タクシー代*2 台 (6,940 円) |
| 使用料 | 324 千円 | 平成 27 年 1 月 24 日 もも脳ネット県民フォーラム 岡山市民会館大ホール使用料 58,700 円 岡山市民会館当日会場使用備品・光熱費 129,990 円 岡山市民会館当日看板設置料 135,000 円 |
| 需用費 | 2658 千円 | 晴れやかネットシステム整備費 100,000 円 フォーラム当日お弁当・お茶代 66,650 円 フォーラム当日茶菓子代 5,455 円 幹事病院会議用お茶・茶菓子代 11,518 円 山陽新聞折込チラシ (フォーラム) (153,750 部) 449,096 円 上記チラシ印刷代 (ポスター 1 部・パンフレット 6 千部含) 388,881 円 山陽新聞メディカ広告掲載費 432,000 円 プラザ岡山 12 月号広告掲載費 248,400 円 山陽新聞折込チラシ (脳卒中予防啓発) (149,000 枚) 435,758 円 上記チラシ印刷代 325,650 円 岡山市民会館イベントガイド掲載費 10,000 円 フォーラム当日配布用 DVD 作成料 64,800 円 コピー代 4,600 円 文具費 4,320 円 フォーラム当日使用物品購入費 38,719 円 消耗品代 71,517 円 |

| | | | |
|-----|----------|-------|-------------|
| 役務費 | 9 千円 | 振込手数料 | 8,424 円 |
| 合計 | 3,351 千円 | | 3,350,302 円 |

編集後記

平成 21 年 4 月から岡山県南東部の脳卒中パスの運用が開始されました。6 年が経過しますが、1 年経過する度に、連携が強化されているのを実感いたします。年に数回開催される実務者会議と、年に 1 回開催される県民フォーラムとで、多くの病院の多くの職種の人と、直接顔を合わせて話をするのが連携を深くしていることがよく分かり、「顔の見える関係」の大切さを痛感いたします。

今回、事務局をさせていただくこととなり、最も大きな事業は「第 5 回もも脳ネット県民フォーラム」でありました。前年は川崎医科大学附属川崎病院が幹事をされ、シンフォニーホールにて 600 名を集客されました。今回、当院と岡山リハビリテーション病院が当番幹事となり、大変プレッシャーを感じておりました。予算の関係で会場は岡山市民会館を選択しましたが、会場予約は 1 年前に抽選会に並ぶ必要があることが分かり、寒い中、くじ引きに参加したことをよく覚えております。岡山リハビリテーション病院さんと苦労を分かちあう過程で、以前より親しくなり、やはり「顔の見える関係」の大切さを実感いたしました。今回の県民フォーラムは 388 名の一般の方々に参加していただきました。“啓蒙活動”という意味では、一人でも多くの方に参加していただきたかったです。世間ではインフルエンザが猛威をふるっている時期でもあり、仕方がなかったかと思えます。

来年度は、今年度の宿題であるパスの改訂作業から始まるかと思えます。改訂が終了するとパスの電子化推進が待っております。年々と病院間の繋がりが強化されており、物理的にも使用しやすい電子化が広まることで、より一層強固な連携がなされることに期待しております。

平成 27 年 3 月 31 日

岡山市立市民病院
桐山英樹

第二章

運用会議、コアメンバー会議の報告

「脳卒中医療連携におけるアウトカム・バリエーションマネジメント」に関しては岩永健先生(岡山赤十字病院)が中心となり、データ集計と情報共有をした。

「大腿骨頸部骨折におけるアウトカム・バリエーションマネジメント」に関しては高木徹先生(岡山赤十字病院)が中心となり、データ収集と情報共有をした。

☆添付資料1のもも脳ネット運用会議議事録、もも脳ネットコアメンバー会議議事録を参照

第三章

「もも脳ネット」定款・細則の整備

大森信彦先生（金川病院）、井上剛先生（川崎病院）が中心となり整備した。

もも脳ネット定款に関しては原案が作成され、平成 26 年 4 月 1 日より施行された。

定款施行の役員の選定をするため、もも脳ネット理事募集要項を整備し、もも脳ネット理事募集用紙を配布した。

☆添付資料 1 のもも脳ネット運用会議議事録、もも脳ネットコアメンバー会議議事録を参照

第四章

連携パスの電子化推進

西崎進先生（岡山光南病院）、井上剛先生（川崎病院）が中心となり整備した。

「晴れやかネット」を利用した連携パス電子化を進めた。

「晴れやかネット」使用に関しての同意方法などに関して情報共有した。

☆添付資料1のもも脳ネット運用会議議事録、もも脳ネットコアメンバー会議議事録を参照

第五章

連携パスの改訂

脳卒中急性期に関しては片山伸二先生（岡山ろうさい病院）が中心となり整備、回復期リハビリテーションに関しては森田能子先生（岡山リハビリテーション病院）が中心に整備した。大腿骨頸部骨折に関しては片岡昌樹先生（岡山赤十字病院）が中心であったが、開業されたため、高木徹先生（岡山赤十字病院）が中心となり整備した。

パスの改訂作業には多職種が必要であり、連携パスに関しては従来通りエクセルを使用することとなり、改訂作業を行った。オーバービューパスに関しては従来の書式の一部を改訂することとなった。

☆添付資料1のもも脳ネット運用会議議事録、もも脳ネットコアメンバー会議議事録を参照

第七章

脳卒中予防啓発チラシ配布

平成 27 年 3 月 15 日に山陽新聞朝刊の折込にて約 15 万世帯へ「脳卒中予防 10 カ条」を配布した。

添付資料 1

もも脳ネット運用会議議事録

もも脳ネットコアメンバー会議議事録

第5回もも脳ネット県民フォーラム開催内容

広報活動記録

資料 1

脳卒中を知り予防しよう

資料 2

回復期リハビリテーションをご存知ですか？

資料 3

クイズでがってん

特設会場 スライド資料

県民フォーラム報告
(アンケート結果を含む)

添付資料 1

もも脳ネット運用会議議事録

もも脳ネットコアメンバー会議議事録

もも脳ネットコアメンバー会議議事録